



2009. 7. 15

マーク制作: 関知磨子(秋津コミュニティ: 蚊帳の海一座)

(融合研のホームページ) <http://yu-go-ken.net/>

(事務局) 〒273-0122 千葉県佐倉市中志津7-17-4 (TEL&FAX) 043-463-1929

本号の内容

○巻頭言: 宮崎稔会長 「融合主義のススメ」

1 第13回融合フォーラム in 神奈川の概要

2 役員会報告

○メーリングアドレスが変更になります

3 千葉支部研修会の記録(概要)

4 事務連絡

○会員継続について

○2010年度以降のフォーラム開催の立候補・役員立候補を受け付けます。

巻頭言

融合主義のススメ

—— 海士町から見る融合主義の課題と可能性 ——

融合研会長 宮崎稔

これから展開する論は、未完成です。5月30日の千葉県支部大会で「国家体制を融合主義に」というタイトルで提案したものに、多少の筆を加えて述べさせていただきます。

「学社融合」は、学校・地域のそれぞれの主体性を失うことなく、双方にメリットが生まれるように結び合うことです。そこには、互いの立場を尊重するという配慮が伴います。この融合の考えは、「学」と「社」だけになされることなく、どんなことにも通用すると思います。岸裕司副会長は、このことを称して「融合の発想」と述べておられます。「主義ではイデオロギーではないか!」と思われるかも知れません。「発想の方が柔らかくて良いのではないか」という人もいるかも知れません。でも私は、「融合の発想」という表現を認めつつ、今や一歩進めて「融合主義」という言葉をあえて使いたいと思うようになりました。

資本主義とか共産主義、はたまた日本型社会主義とか言います。また自由主義とか全体主義とか主義と名の付くものは多くありますが、それぞれに課題が見つかったり、なかには崩壊したものもあったりして、もはやそういう既存の主義では理想を語れなくなっている時代になりました。経済(金)では幸せは買えないし、あまりに協働ばかりでは自己実現は果たしにくいということも分かってきました。これからの時代に必要なのは、まさに「融合主義」。融合を主義として主張して、国家や世界へ問いかけていきたいと考えているのですがいかがなものでしょうか。

島根県海士町に移住して8ヶ月。都市部とは違う離島での生活を具体例にして、融合主義の課題

と可能性について考えたい。海士町にとっては、「表面的なとらえ方であり、事実誤認で当を得ていない」という批判もあるかも知れない。しかし、「最初に抱いた感想を大事にしてください」と言ってくれる海士町の温情に甘えて、感じたままを述べたいと思う。

1 学校教育では

統合や合併で無くなる学校が増えている。それによって火の消えた集落、やがてはなくなるのも時間の問題という集落が多い（限界集落）。

高校も生徒数の急激な減少で、統廃合という施策が強く打ち出されている。このことは町そのものの存続にも大きな影響を与えてくる。「子どもにより良い教育を」と願わない親はいない。そこで生活の全てを転換してまでも高校のある都会に移住し、教育が原因となって若い世代から人口減が起こってくるからである。

一方ソフトの面でも問題は少なくない。過疎地では多すぎる大人の数によって、さまざまな居場所が確保され子ども達は忙しい。しかもどこに行っても大人の管理下にある。これでは主体性は育たない。地域の大人や行政は、「多くの人の多様で多彩な個性の中で子どもを育てること」の意義とその方法をもっと共有しあうことが必要である。意義を考えないで行われている活動の被害者は子どもである。学社融合の考えは、実践の理論的な最先端になることができる。

2 高齢者対策では

海士町の高齢者は金持ちが多い。年金生活で悠々自適でノンビリ生活をしている人も少なくない。食べ物は、魚も野菜も米さえも自前で手に入る。その一方で、自らがボランティアとして活動するなどして行う地域づくりに参加する人は少ない。「ひとのために」「自分を犠牲にして」「奉仕する」という観念が根強く、引いてしまっているのではないだろうかと思われる。自分の喜びが互いの支え合いになり、ひいてはまちづくりになるという融合主義をもっと広めていく必要があると思われる。

高齢者は、人生をどのように全うするかということが最大の課題になる。そして、馴れ親しんだ地元で生を全うしたいと願うのは自然である。しかし、地元福祉施設は十分ではない。さりとて家族に迷惑をかけられない。海士町に限ったことではないが老後はどこに行けばいいのだろうかと思悩んでいる人が多い。

地元で、廃校などを利用した不十分でも小さな施設を造れないものか。幼なじみがやって来る施設。元気な間はボランティアとして介護の手伝いをしたりして助け合い、老化の進行を遅らせることもできる。一番の課題である医療については、人が少ないのだから専門医は巡回してくるだけで良いという方策も可能だろう。やがてはわが身になる「老い」を、若いうちから双方にメリットのある融合で乗り切っていくという街づくりを志向すべきではないだろうか。

3 医療では

離島の存続にとっては、教育と共に医療が最大のネックである。医療を医者立場から考えると（素人的な発想かも知れないが）、忙しい医者、偏る専門、採算の取れない病院等々に課題が多く、医者のなり手さえ減少していると聞く。融合主義ならば、そういう事態に住民として救いの手をさしのべることもできるのではないだろうか。

海士町には町に診療所が一つあるだけである。他に民間の歯科医が一つ。しかし、診療所には先進技術を備えたそれなりの医療機器も揃っている。

これからは、もっと医者を増やしたらどうか。小さな集落毎に診療ができて、前述の巡回を多くするなどのきめ細かな体制をとるようにする。医者の所得は低くなるだろうが、激務にならず医者も人らしく生活できる。小さな町に専門医はいなくてもよい。県単位が大都市に集中してあればよい。情報機器の活用で診療所では検査だけをして、大都市の医療センターにデータを送る。そのような方式で医療は手厚くなる。今やこのことは日本全体の課題になりつつある。融合主義ならば、医者の人らしい生き方をも考慮できるので多くの解決策が可能になるのではないだろうか。

4 生産では

海士町は、農業・漁業・林業も恵まれている島。十分に生きていける量をたやすく手に入れるこ

とができる。多く収穫があったときは、「もって行けや！」と渡してくれたり、中には届けてくれたりする人が多い。もらってもらえることが自分（生産者）にとっても喜びのようなのである。しかも自己実現をしながらの働く喜びを他者と分け持っているのも、まさに融合主義である。

これは、見方を変えれば日本全体でも言えることではないだろうか。食料自給率が低いと言われるが、休耕田の利用や若者による企業化等の工夫をし、働き手の確保と生産の向上が図られる。もったいない精神でムダにしないように分け合えば、結構な自給率が確保できるのではないだろうか。それで収入を得ている人には打撃になるかも知れないが、その人として別の生産物は分けてもらえるので生活ができないということもない。外国の生産物を輸入しなければならない等の政治的問題はあるかも知れないが、都会の周辺にも畑などはある。少し昔の日本がそうであったように「おたがいさま」だから、みんなで支え合うという融合の気持ちをもてるようにすれば、まだまだ日本再生の道はある。

5 行政（役場の在り方）は

地方交付税のカット（引き下げ）があると地方は壊滅的な打撃を受ける。因みに海士町は、町民の町税負担分は、わずか10%程度であり他は交付金等である。（これにはビックリした。千葉に居たときに古いオンボロ校舎で我慢していたが、都市部の金が自分の所に廻って来ないでこのように使われていたのかと知って複雑な気持ちになった。地方にも言い分はあるだろうが、だからこそ問題はその使い方であろう）。もしかしたら地方行政には、こういう補助金生活が染み付いて、旧来的な公共事業依存の粗い手法がまかり通っているのではないだろうか。ここ一年は、経済危機の影響で様々な補助金が注ぎ込まれている。「公共事業で金を使え！」という施策のオンパレードであるといつてよい。行政（役場）は、「金がついたぞ、何か使い道はないか」と担当部署に呼びかけてくる。「この際だからアレもコレもやっちゃおうか」と、相変わらずの道路整備や箱物ラッシュである（ただし、以前と違うところは改修等が主である。しかしどうしても必要なかとギモンの物も少なくない）。こういうことに馴れてしまっているので、金が下りてこなければ町は成り立たなくなる。

しかし国も財政難である。地方への金も減少するのが目に見えている。夕張市の様な行政の破綻はどこでも時間の問題であろう。独自の町税収入も年金で暮せる金持ちの世代が居る内はまだいい。程なくしてそういう世代が減少すると、こういう行政をしている町はなくなってしまうのではないだろうか。

自給自足で満足する人だけが生きていける島、できることを発揮し合って支え合うことの喜びを知る人だけが生きていける町だけが残るといふ時代になるのかも知れない。そういう融合の町だけが残る。それならばそれで結構なことだと思う。

6 趣味・特技・生活では

海士町の大人は元気がよい。いや元気すぎると言って良い。また仕事をする人数として確保されているので、「ボランティアをしている暇はない。」という人さえいる。一方、むかしから教育に力を入れてきたので、都市部並みやそれ以上に学（歴）のある人も多い。個々には品格がある。ただし、

- ・金と学があり健康なのだが、支えあって生きることのよさに気づいている人が少ない。
- ・人情も厚いのだが、自分自身がいい人であることに気づいていない。「ふつうだよ」というが、ふつうのレベルが高いのである。狭くて情報が入らないからかレベルの高さを知らないのである。
- ・島には娯楽がほとんどないから酒の席（会）が増え、他人のプライバシーを覗き合いながら、それでも健気に生きている。

「高齢者は社会資源だ！」とは、故庄子平弥さんのことばである。団塊の世代以上の年齢には知恵者が多い。そういう今こそ、「融合」によってできることを発揮し合って支え合うことの喜びを知れば、社会教育費などは必要なくなる。金を掛けなくても人の心は豊かになり、町の至る所で「より良い町」を目指す営みが普通に行われるようになり、豊かな町が現出する。融合主義とは、そういう究極の良さにつながるのである。

うした融合主義によって、日本はステキに再生するという日の実現を夢見ている。

1 「第13回融合フォーラム in 神奈川」開催要項

今年で13回目を迎える融合フォーラムが、これまで長期に渡って実績を積んできた神奈川県厚木市で以下のように開催されます。今回は、多くの機関からの後援もいただき、また文科省の担当者等の参加も見込まれますので、熱い議論が期待できます。多くの方の参加をお待ちしております。

第13回 融合フォーラム 2009 in 神奈川 ～大人になっても戻りたくなる学校と地域とは～

主催	学校と地域の融合教育研究会	
主管	第13回融合フォーラム 2009 in 神奈川実行委員会	
後援 (申請中含む)	神奈川県教育委員会 厚木市 厚木市教育委員会 神奈川県公立小・中学校長会 厚木愛甲地区小・中学校長会 神奈川県PTA協議会 小学館 こども環境学会 社 団法人農山漁村文化協会 日本教育新聞社 財団法人全日本社会教育連合会 社 団法人日本青年奉仕協会 財団法人さわやか福祉財団 日本セーフティプロモ ーション学会 日本市民安全学会 警察政策学会	
協力	日産自動車(株) 厚木市ジュニアリーダーズクラブ連絡協議会	
日時	2009年9月20日(日)	
会場	日産先進技術開発センター	
テーマ	学校と地域のかけ橋は子どもだ！	
会費	1,000円(資料代+昼食弁当代込み) ※融合研会員には、年報を配布いたします。 その他イベントの会費は以下の通りです。 9/19(土) 前日祭(学習会と前夜祭) 学習会 無料 前夜祭 6,000円(宿泊込みは12,000円) 9/20(日) 懇親会(フォーラム終了後の懇親会) 4,000円	
日程 (9/20)	09:00～	受付
	09:30-09:50	プロローグ(厚木市ジュニアリーダーズクラブの皆さん)
	09:50-10:00	開会の言葉 学校と地域の融合教育研究会会長 宮崎 稔 第13回融合フォーラム 2009 in 神奈川実行委員長 青木 信二
	10:00-11:30	全体会 <基調提案> 各分科会の代表事例の発表
	11:30-13:00	昼食 ～ふれあいタイム～ 各種公演・イベント・展示閲覧・情報交換……
	13:00-14:30	分科会 <事例発表と研究協議>
	14:45-16:45	シンポジウム「学校と地域の架け橋は子どもだ！」 コーディネーター 矢吹 正徳 日本教育新聞編集局報道部長(学校と地域の融合教育研究会会員) パネリスト 4分科会のコーディネーター
	16:45-16:50	エピローグ

分科会の紹介

第1 分科会	「協働で学校と地域が変わる」	
	コーディネーター	野澤 令照 学校と地域の融合教育研究会副会長
	発表者1	藤尾 智子 岩手県紫波町
	発表者2	金寄 修 大阪府羽曳野市 羽曳野市立羽曳が丘小PTA おやじの
発表者3	井上 典子 北海道枝幸町「遊YOU広場」放課後子ども教室	

第2 分科会	「これが学校支援地域本部！」	
	コーディネーター	越田 幸洋 学社融合研究所
	発表者1	渡邊 真知子 栃木県鹿沼市 北光クラブ
	発表者2	神奈川県厚木市 厚木市立毛利台小学校パートナー委員会
発表者3	澤江 健 島根県津和野町	

第3 分科会	「学校と地域の安心・安全！」	
	コーディネーター	岸 裕司 学校と地域の融合教育研究会副会長
	発表者1	石附 弘 厚木市セーフコミュニティ専門委員
	発表者2	佐竹 正実 千葉県習志野市 秋津コミュニティ
発表者3	神奈川県厚木市 厚木市立清水小学校ネットワーク会議	

第4 分科会	「中学生がかけ橋で地域が変わる」	
	コーディネーター	渡辺 喜久 学校と地域の融合教育研究会副会長
	発表者1	青木 信二 神奈川県厚木市 森の里
	発表者2	篠原 信良 静岡県富士宮市 富士宮市立井之頭中学校
発表者3	宮城県仙台市 仙台市教育委員会学校教育部	

前日祭

対象者	融合研会員・大会実行委員・希望者(学習会のみ参加も可です)
日時	平成21年9月19日(土) 学習会 14:00～ 前夜祭 16:30～
内容	14:00～ 学習会 学校と地域の融合教育研究会会長 宮崎 稔 「学校と地域の融合のあり方を本音で語りあう」 ・・・学社融合を支える信頼づくりとは・・・
	16:00～ 学校と地域の融合教育研究会総会 (※融合研会員のみ)
	16:30～ 宿泊地へ送迎バスにて移動し、前夜祭
会費	学習会のみ 無料
	前夜祭のみ 6,000円
	前夜祭・宿泊 12,000円
会場	学習会 厚木シティプラザ6F ヤングコミュニティセンター(ホール 250) 厚木市中町 1-1-3 電話 046-221-1110
	前夜祭・宿泊 あつぎ飯山温泉「美登利園(みどりえん)」 厚木市飯山 5157 電話 046-241-2577・2578

懇親会

日時 平成 21 年 9 月 20 日(日) 17:30～20:00

会費 4,000 円

会場 厚木商工会議所 1 階ホール
厚木市栄町 1-16-15 電話 046-294-0500

会場案内



フォーラム会場へのアクセス

◆公共交通機関

小田急線「愛甲石田駅」下車
神奈川中央交通バス愛甲石田駅より
愛 16 系統 8:45 発 森の里行
厚木西高校前下車徒歩 7 分
愛 8 系統 8:30 発 松蔭大学行
松蔭大学前下車徒歩 3 分
愛甲石田駅よりタクシーで 15 分

◆自家用車

東名高速道路厚木 IC より 15 分
駐車台数に限りがあります。なるべく、乗り合わせをお願いします。

※無料会場直行バスの運行を予定

愛甲石田駅より 8:40 発、9:10 発
(帰りもあります。)

フォーラム申し込み方法

- ・ インターネットからの申し込み

http://yu-go-ken.net/new_fm5/

- ・ FAX、郵送での申し込み

次ページの申込書に記入の上、FAX もしくは郵送してください。

第 13 回融合フォーラム 2009 in 神奈川参加申込紙

もれなくご記入の上、FAX か郵送してください。

※FAX で申し込む方は FAX 番号を必ずご記入下さい。

受付締切日 平成 21 年 9 月 8 日(火)

融合研会員ですか	はい いいえ	会員番号	
名前(フリガナ)		性別	男 女
名前		郵便番号	
住所			
電話		FAX	
9/19 の前夜祭に参加しますか	はい いいえ	9/20 の懇親会に参加しますか	はい いいえ
9/19 の宿泊を希望しますか	はい いいえ	駐車場を利用しますか	はい いいえ

参加形態(希望する参加形態のアルファベットを○で囲んでください)

【参加の形態】	A	B	C	D	E	F
フォーラム(9/20)	●	●	●	●	●	●
前夜祭(9/19)	●	●	●		●	
宿泊(9/19)	●	●				
懇親会(9/20)	●		●	●		
会員	17,000	13,000	11,000	5000	7000	1000
非会員(注)	17,000	13,000	11,000	5000	7000	1000
会費内訳	9/20 フォーラム	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	9/19 前夜祭			6,000		6,000
	9/19 前夜祭+宿泊	12,000	12,000			
	9/20 懇親会	4,000		4,000	4,000	

※ 9/8 以降の宿泊・前夜祭・懇親会のキャンセルに対しては、キャンセル料が生ずることがございますのでご了承下さい。

送付先 〒285-0843 千葉県佐倉市中志津 7-17-4 融合研 宮崎 雅子

送付先 FAX 番号 043-463-1929

3 千葉支部大会の概要

参加者は例年よりも少なかったですが、今年も千葉支部研修会は盛りだくさんの内容で行われました。概要は、以下です。

- 1 テーマ「学校とまち育てを考える」
- 2 内容(資料や詳細については、お問い合わせください)
《一日目》

○13:00～17:30

- ①支部長あいさつ
- ②発表(1) 益満薫人(まじやりんこサポーター)「まじやりんこ」の活動と支える力
- ③発表(2) 肥田史宣(千葉大学教育学部小学校教員養成課程卒業論文)
「学校と地域が共に創る学びの場～学校拠点・地域拠点の学社融合の事例をもとに～」
- ④発表(3) 村井光(北海道教育大学大学院教育学科・修士論文)
「地域教育計画の今日的異議における教師の役割～認識論的アプローチを中心に～」
※本人が参加できないために、プログラム開発委員長「永谷貴弘さん」が代わって解説しました
- ⑤発表(4) 宮崎稔(融合研会長)
「海士町から見えるもの～町育てと学社融合～」

○18:00～20:00

- ・夕食会・懇親会
- ※油谷知端子会員(杉並区教員研修生)によるミニスピーチと和笛の演奏

《二日目》

○9:00～11:30

- ⑥発表(5) 岸裕司副会長の解説と石附弘会員の翻訳「韓国での秋津小紹介DVD」
- ⑦発表(6) 岸裕司融合研副会長「和田中と秋津小の見える学力・見えない学力」
- ⑧永谷貴弘「講評と総括」
- ⑨事務連絡

※ほかに配付資料として、「SNC(市川市下貝塚中ブロックナーチャリングコミュニティ)だより」2部

4 事務連絡

(1) 会員継続の更新について

すでにメール会員につきまして、以下の様に連絡しましたが、手続きがまだの方は、引き続きよろしくおねがいします。

(事務局より)

会員更新の時期になりました。

融合研のHP <http://yu-go-ken.net/>の各種手続きの「オンライン手続き」よりお願いします。(7月末まで)

会費3000円のご入金もよろしく御願います。

(会費につきましては9/20のフォーラムの時でも結構です。)

退会される方はお手数ですが、必ず「退会」のご連絡をいただきたいと思ひます。

※郵送会員の方は別紙更新用紙に記入の上 FAX(043-463-1929)または郵送下さい。

(〒285-0843 佐倉市中志津7-17-4 宮崎雅子まで)

(2) メーリングリストのサーバー変更について

ホームページの管理をしているサーバーに変更します。

今、融合研のメーリングリストは、Yahoo!の無料のものを使用していますが、迷惑メールも多く何人かの人に配信されないという事もありましたのでホームページの管理をしているサーバーに変更したいと思ひます。

います。変更時期はフォーラム終了の時期を考えております。事前に予告をします。また、ある程度の期間を設けて行います。少しの間は、旧のものも使えるようにしたいと考えています。
みなさまのご協力よろしく御願います。

(3) 2010年度以降のフォーラム開催の立候補を受け付けます。

2009年度の融合フォーラムは、神奈川県厚木市に決定し準備が進んでいます。多くの会員の参加をお待ち致します。また、会員以外の方へもお誘いください。

それ以後のフォーラム開催について、支部や近隣の人と相談したりして手を挙げてください。自分ひとりだけでもその意向がある方は、「事務局へとりあえず相談」してみてください。

「2011年度以降なら」という地域でも構いません。「今は、まだあまり推進されていないから」という地域でも結構です。フォーラムを機会に、融合の推進が図られたという地域もごぞいます。どうぞ、奮ってご応募ください。

(4) 2010～2011年度の役員の立候補を受け付けます。

一部の役員を除き、多くの役員は発足以来ほぼ同じメンバーです。会の活性化を図る意味からも新しい血の導入も必要とされています。役員になって融合研を改革したいというご意思のある方は、是非、「事務局まで」意思表示をしてください。お待ちしております。

編集後記（のようなもの）

会報39号をお届けします。今回は神奈川フォーラムの内容が中心ですが、メーリングリストのサーバー変更の連絡もあります。よくお読みになって適切に対処してください。

会として13年目を迎えた今、融合研の地道な実践の確かさが改めて確認出来ます。多くの方が会活動に参加されることをお待ちしております。(M)